

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 5 部門第 2 区分
 【発行日】平成 18 年 6 月 15 日 (2006.6.15)

【公開番号】特開 2000-337479 (P2000-337479A)
 【公開日】平成 12 年 12 月 5 日 (2000.12.5)
 【出願番号】特願 平 11-145956
 【国際特許分類】

F 1 6 H 55/36 (2006.01)

F 1 6 D 41/06 (2006.01)

【F I】

F 1 6 H 55/36 Z

F 1 6 D 41/06 F

【手続補正書】
 【提出日】平成 18 年 4 月 21 日 (2006.4.21)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 2 3
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 2 3】

又、上記ラジアルころ軸受 9 は、上記外輪 19 の前半部（図 1 の左半部）と前記スリーブ 8 の先端部外周面に形成した内輪軌道 18 とを含んで構成している。即ち、上記外輪 19 の前半部内周面と上記内輪軌道 18 との間に、合成樹脂により籠型円筒状に形成されたころ軸受用保持器 24 と、このころ軸受用保持器 24 により転動自在に保持された複数のころ 25 とを設けている。又、上記外輪 19 の先端部内周面と上記スリーブ 8 の先端部外周面との間の隙間は、シールリング 26 により塞いでいる。このシールリング 26 は、芯金 27 と弾性材 28 とにより構成しており、上記外輪 19 の先端部内周面に、この弾性材 28 の外径を弾性的に縮めた状態で、内嵌支持している。そして、この弾性材 28 に設けた複数本のシールリップの先端縁を、上記スリーブ 8 の先端部外周面、並びに上記鍔部 20 の内側面に摺接若しくは当接させている。又、上述の様にローラクラッチとラジアルころ軸受 9 とを組み付けた状態で、上記クラッチ用保持器 21 ところ軸受用保持器 24 とは、上記外輪 19 の基端部に設けた鍔部 20 の内側面と上記シールリング 26 を構成する芯金 27 の側面との間に配置されて、軸方向に変位するのを阻止される。